

評価委員会総合評価

研究課題名：火山活動の監視・予測に関する研究

評価委員

委員長：小泉 尚嗣

委員：岩崎 俊樹、関口 渉次、西村 太志、馬場 俊孝、保坂 直紀

評価年月日：令和5年11月10日

1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった
- 優れた研究であった
- 研究を実施した意義はあった
- 失敗であった

2. 総合所見

多岐にわたる研究開発を実施し成果を上げた。その成果の一部は、火山噴火予知連絡会の火山活動評価に活用され、気象庁業務へは導入済みあるいは準備中のものもあり、社会的にも意義のある研究成果となっている。火山災害は非常に複雑で多岐にわたる。加えて、その重要性に対する社会の認識も深まっている。まとめに、「それぞれの副課題がこれまで以上に密接に連携しながら、気象庁業務のニーズを取り入れて研究を高度化する必要がある。火山活動の監視や評価の研究を推進するためには、気象庁のアドバンテージである気象分野のデータや知見をこれまで以上に取り込んで高度化することが有効である。」とある。このような基本的な理念は、総合的な火山防災の早期確立に有効と思われる。以上のことから、本課題は優れた研究であったと評価できる。今後ともこのような考えに基づき研究を発展させることを期待する。

次期研究計画に向け、以下の指摘事項を踏まえて、取り組んで欲しい。

- ・ 火山の監視、予測研究は、火山調査研究推進本部の発足をはじめとして、今後とも加速させていかなければならない分野であり、他機関との連携も含めて気象研究所には主導的な役割が期待されている事。
- ・ 副課題1は、「地殻変動観測等に基づく火山活動評価」ではあるが、実施した3つのテーマは各種観測の測定技術の開発にとどまっている。気象庁は、噴火警戒レベルを設定する重要な役割を担っており、測定量の高精度化を図るだけでなく、データに基づいた火山活動の評価・予測をする方法についての研究も進める事。
- ・ 成果に関する論文や学会発表の数に比べて報道発表が非常に少ない点は、改善すべきである。平時における火山への国民の関心は低い「報道発表」という形に限らない情報発信の工夫をする事。